

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566) 22-2111
FAX (0566) 25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 吉原 孝彦
幹事 出口 達也
会報委員長 佐野 彰彦

2017 ~ 2018年度 国際ロータリー イアン H.S. ライズリー 会長テーマ

ROTARY : MAKING A DIFFERENCE ロータリー : 変化をもたらす

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2989回例会プログラム

[当年度=15回目; 当月=1週目]

2017年(平成29年)11月6日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……………〈会長〉
3. 開会宣言
4. 国歌斉唱
5. ロータリーソング斉唱……………奉仕の理想
6. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
7. 食事
- 12:45 8. 会長挨拶並びに会長報告
9. 西三河分区
インターシティ・ミーティング (IM) PR
IM 実行委員長
磯貝総一郎 様 (西尾 KIRARA RC)
IM 副実行委員長
伊藤 則男 様 (西尾 KIRARA RC)
10. お祝い
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)
11. 幹事報告
12. 出席報告
13. 委員会報告
14. ニコニコボックス報告
15. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(11/13) ……休会
(クラブ定款第8条第1節(c))
(11/20) ……
卓話 「日本の伝統芸能と御園座」
講師 株式会社 御園座
取締役副会長 長谷川永胤 様
(紹介者 丹羽 克誌 会員)
- 13:00 16. 本日のプログラム
新入会員アワー
寺田 博正 会員
中村 育生 会員
17. 謝辞
18. 点鐘……………〈会長〉
19. 閉会宣言
13:30 20. 散会

ビ ジ タ ー

西尾 KIRARA RC ガバナー補佐 ^{おおたか としのぶ} 大高 敏睦 様
西尾 KIRARA RC IM 実行委員長 磯貝総一郎 様
西尾 KIRARA RC IM 副実行委員長 伊藤 則男 様

ゲ ス ト



青少年交換学生 ローウェン・ジェームス・
マコーン・ステファンソン 君

出 席

会員総数 94名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 85名
欠席 12名 出席率 84.70%
前々回 (10/23) の修正出席率 100%

会 長 報 告

- 1) 盛田豊一会員が旭日単光章を叙勲されました。今村順会員が藍綬褒章を受章されました。





2) 2018～2019年度、第1回次期理事役員候補者指名委員会が開催され、橋本恭典会員が委員長に指名されました。

指名委員の発表

2018～2019年度

次期理事役員候補者指名委員の発表

(理事申合せ事項第1条)

委員長	橋本 恭典	(会長経験者)
委員	嶋津 孝久	(会長経験者)
委員	鈴木 豊	(会長経験者)
委員	杉浦 芳一	(会長経験者)
委員	加藤 真治	(会長経験者)
委員	加藤 哲也	(直前会長)
委員	吉原 孝彦	(会長)
委員	堀田 昌義	(副会長)
委員	鈴木文三郎	(会長エレクト)
委員	出口 達也	(幹事)
委員	豊田 貴久	(副幹事)

以上11名

会員の皆様には、次年度の理事役員候補者の推薦がございましたら11月30日(木)までに、指名委員会にお申し出下さい。

会長あいさつ

米山記念奨学会その2

吉原 孝彦



ロータリー米山奨学委員会は全国19の大学に対して奨学生の募集を行い、8大学から8人の奨学生が選ばれました。この中には京都大学と九州大学の学生もいたことから奨学金の手交と交流を京都RC、福岡RCに依頼したことにより現在の「世話クラブ制度」の始まりとなりました。

奨学生は順調に増え、名称も「ロータリー米山記念奨学会」と変更されましたが財政面では寄付率が向上しないことと奨学期間に明確な上限が無かったため常に不安を抱えた状態でした。しかし、1961年にアジア初となるRI国際大会が東京で開催されたのを契機に日本のロータリーは飛躍的な発展を遂げ、それに伴い奨学会も落ち着きました。そして1967年7月1日、ついに財団法人ロータリー奨学会が誕生しました。

1971年4月からは奨学生とロータリアンとの結びつきを強めるため、奨学生一人に専任のロータリアンがつく

(2)

「米山カウンセラー制度が実施されました。ここに奨学事業が単なる経済的支援に終わらない、「心を育てる国際奉仕」が確立しました。また1989年には現在RCは無いが、中国・キューバ・ミャンマーなど、以前にロータリーの所在していた国からも門戸を開き現在の形となりました。

静岡県長泉町にある米山梅吉記念館は昭和44年に財団法人米山梅吉記念館として発足し、今の建物は平成10年に完成しました。主に2620地区が運営されていますが、理事及び法議員は全国的に拡大しています。

2015年のデータでは米山記念奨学会は民間資金で設立された団体の内、全国6位となっています。

2017年は793人に支給されました。上位から中国314名、ベトナム110名、韓国95名となっています。累計では総数19808名、うち中国6636名、韓国4423名、台湾3463名です。2760地区では今年115名の申し込みに対し39名が合格しました。

奨学生には確約書を交わしていただきますが、そこには奨学金の打ち切りの場合が書いてあります。

- ①世話クラブの例会に欠席し、2カ月以上連絡をしなかった場合
- ②米山奨学生レポートを提出しなかった場合
- ③予定された卓話や地区で開催される行事に正当な理由無く協力しなかった場合

西三河分区 IM PR



古希のお祝い



加藤 哲也 会員

お祝い

11月の会員の誕生日…加藤哲也、小河俊文、河内利夫、鈴木一正、丹羽克誌、横山昌幸会員。

配偶者の誕生日…霜出恵子(俱弘)、神谷登志子(光義)、

堀康子（正剛）、太田典子（宗一郎）、鈴木友子（一正）、岩瀬昌子（正人）、市川嘉子（裕大）、深谷眞理（嘉英）、關香（淳之）様。

結婚記念日…平野和一、羽田育哉、霜出俱弘、塚本幸夫、竹内一正、岩瀬正人、鈴木文三郎、小川耕示、佐野彰彦、盛田高史会員。

11月度入会記念日…堀正剛、大音祖瑛、山下雅則、吉岡秀記会員。

新入会員アワー

寺田 博正 会員



私は1976年、刈谷市生れの41歳です。家族構成は7人家族で子供が4人います。長男、長女、次女、次男で上は9歳から下は2歳まで賑やかな環境で過ごしています。趣味は旅行、サウナ、相撲観戦です。略歴は安城南高校を卒業後、中日本自動車短大を中退しています。その後、父

親が経営していたテラダパーツに入社し、21歳の時に新たに飯田市に営業所を出店する運びになり、所長として赴任しました。長野での6年間では、世の中の厳しさや優しさを学ばせていただき、非常に貴重な経験を積むことが出来ました。座右の銘ですが、27歳社長に就任時に何か自分の軸となること、これからの人生で大切にしていけることが必要と考え、以下3つのことを大切にしよう決めました。一つ目は「正道を歩む」グレーは黒、潔白であり続ける。お天道様が見ています。二つ目は「徳を積む」恩は恩でお返しする。奪うより与え続ける人になる。三つ目は「決して逃げない」難局だからこそ事実に向き合う。逃げたら不幸が追ってくる、です。この3つは、様々な判断を迫られた時の基軸にしています。会社の中でも社是として掲げ共有できるよう努めています。なお事業内容は、使用済みになった車をリサイクルしています。使い終わった車から使える部品を選別、テストを行い全国の180社の同業者とネットワークを使って修理工場などに販売をしています。また海外のアジア、中東の発展途上国を中心にオーダーを受けた部品を輸出しています。部品として価値のないものについては、重機などを使って資源として分別し、素材として販売をしています。最近では、車両として価値のある車は中古車として販売や中古車リースとしてリーズナブルな価格で貸し出しもしています。営業拠点は、刈谷、半田、飯田、諏訪等の6拠点にて業務を行っています。自社の事業活動を通して自動車の循環型社会に少しでも貢献できるよう取り組んで参りたいと思います。

新入会員アワー

中村 育生 会員



中部電力の中村でございます。8月より伝統ある刈谷ロータリークラブに入会させていただき、本当にありがとうございます。

まずは、自己紹介ですが、昭和39年10月生まれの53歳、名古屋生まれ

の名古屋育ちです。会社の経歴としては、愛知県とそれ以外の地で交互に働いてきたイメージです。

最初の赴任地は、長野県の上田でした。はじめての一人暮らしをしたのもこの時です。住んでみると自然は豊かで人は優しく、とても素晴らしい場所です。事業場の区域には、日本を代表する避暑地である「軽井沢」もあり、土日には物見遊山で良く訪れていました。

名古屋時代には、2000年9月の東海豪雨を経験し、1週間会社に寝泊まりをしました。自然災害の怖さと可能な限りの準備の必要性は、あの時に強く深く心に刻みました。

最も印象に残っているのは、東京での3年間です。花のお江戸への憧れと共に東京電力という会社が飛ぶ鳥を落とす勢いだったのが印象的でした。しかし、その会社が、ご存じのとおり、福島の中で一瞬にして全く別の会社になってしまいました。他社に関する言及は差し控えますが、こうした事象を踏まえて、当社としてはリスクに対しては徹底した対応が必要と考えております。

この事故を契機に、電力供給の仕組みそのものへの懐疑が生まれ、国が電力システム改革に着手し、それが現在進行しています。こうした流れを受けて赴任した前住地の多治見では、地域にいかにお役立ちできるかを主眼に活動してまいりました。

正直会社に入った時は、競争環境も含めて電力会社が今のような姿になるとは思ってもいませんでした。しかしながら、ようやく知恵を絞る汗をかき、本当の意味で地域の発展を支える機会を与えて頂いていると感じております。また、私自身としても、様々な地域の多くの皆様と接することができるのは、ビジネスマンの醍醐味かなあと思っております。

初めての地、三河でまだ右も左も分りませんが、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。